

建設企業の海外展開

5 大豊建設

マダガスカルで信頼築く

アフリカ・マダガスカル国において2006年10月～2009年7月にエホアラ港建設工事を施工した大豊建設。

同社の海外事業展開について、多田三男代表取締役／土木本部長に話を聞いた。

——海外事業展開について

▽大豊建設の設立が、1940年に満州に建設した大豊満ダムに関わった技術者たちによるものという創設の経緯もあり、1964年のイランにおけるダム建設を皮切りに、早くから海外事業を行ってきた。現在、タイ、マダガスカル、台湾に事務所及び現地法人を有しており、継続的に事業を行ってきた。マダガスカルでは港湾の他にも、首都の国際空港「イバト空港」のエプロン改修工事等も施工しており、多くの実績を残してきた。このほかにも、アフリカ諸国、カンボジ

ア、大洋洲などで、ODA案件の事業を行っており、現在は、パプアニューギニアにおいてODA無償案件の工事を施工している。

——大豊建設の強み

▽まず、タイ、マダガスカル、台湾に30年以上の実績を持つ拠点を維持していることを挙げることができ、きめ細かい営業、調査を行うことができ、また現地人スタッフとの信頼関係から、施工体制を保持できている。次に、シールドトンネル工事、港湾工事といった得意な工種・工法を有している点が挙げられる。港湾工事では、マダガスカルのエホアラ港や、タイのラムチャパン港建設を施工し、ノウハウを積み上げてきている。またシールドトンネルでは、当社開発の泥土加圧工法を台湾で実施・施工している。現地人スタッフの技術力も向上しており、日本人スタッフ

と遜色ないレベルとなっている。

——海外事業の留意点

▽工事施工期間中には、発注者との間で諸問題が発生することが多々ある。交渉がこじれ、裁判、仲裁に発展することもある。

こうした中、エホアラ港建設工事においては、発注者と請負者間で「DB (Dispute Board / 紛争委員会)」を立ち上げ、この点について良い機能を果たす事ができた。DBとは、FIDIC (国際コンサルティン グ・エンジニア連盟) の委員登録者から選定される中立的な委員会。FIDICには契約、建設に熟知した人物が登録されている。

エホアラ港の場合、発注者と業者が選んだ各々1名に加え、この2名のメンバーが推薦する会長を入れた3名で構成。メンバーは、工事進捗を現地で確認し、発注

者、請負者、コンサルタントから問題点の聴き取り等を行う。DBは、プロジェクトの補佐や、

契約を成功裏に且つ有効的に完了させるために重要な役割を担う。紛争解決を仲裁に訴えることなく、非合理事項の解決を契約者両当事者に促し、

手助けをするなどといった事を目的として設置されている。DBが円滑に機能することにより、紛争が減り、費用とも

にセーブする事が可能と考えられる。

——今後の海外事業展開について

▽今後も有償・無償のODA案件中心に事業展開していく。競争が激化する国内建設市場では高い採算は望めず、海外建設市場での利益確保を確実にしていかなければと考えている。しかし、時間をかけた職員教育、現地対応への取組みが必要となるため、人材育成に重きをおいた取組みを行っていく必要がある。また、実績を残してきたタイ、マダガスカルを基盤とし、周辺諸国での展開を視野に入れているほか、台湾では継続的な事業展開をしていきたい。

当面は、会社全体の10～15割のシェア確保を目標

に海外事業に取り組んでいく。

——日本の海外事業展開について

▽積極的な事業展開を推進するには政府の協力・助力は不可欠であり、現地施工を行う際に、大使館、JICA事務所との協力を頂ければと思う。

また、今後のODA事業に関しては、先程も述べたDBを適用した契約が実行されていく事が望まれる。現在、DBが契約に折り込まれていて

も、現地発注者の理解が得られず採用されないケースが多い。もっとDBに対する理解を高めるよう、JICA等関連する方々には今後とも努力して頂きたい。

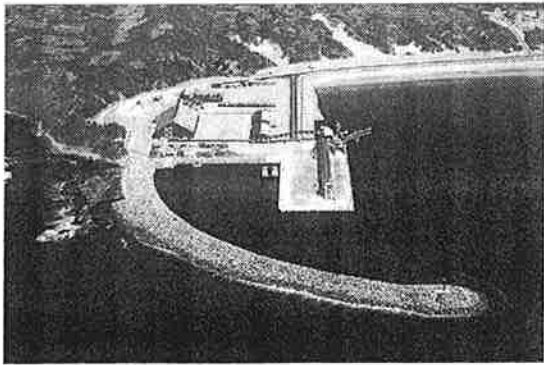
※大豊建設はマダガスカルにおいて人材育成のために「内田弘四基金」を設立している。これは同社の創設者である内田弘四の財産を基に、土木工学を学んでいる大学生を対象に奨学金を支給している。長年にわたりインフラ整備等を行ってきた同社は、ハード、ソフトの両面からマダガスカル

の発展を支えている。

「エホアラ港の工事概要」

▽岸壁(設計施工) Ⅱ延長275m、幅75m (第1バース:マイナス17.4m、第2バース:マイナス8m)、控え杭式鋼管矢板構造。▽岸壁設備Ⅱ係船柱、防舷材、荷役整備基礎。▽浚渫約78万立方m。▽埋立約11.3m。

カルにおいて人材育成のために「内田弘四基金」を設立している。これは同社の創設者である内田弘四の財産を基に、土木工学を学んでいる大学生を対象に奨学金を支給している。長年にわたりインフラ整備等を行ってきた同社は、ハード、ソフトの両面からマダガスカルの発展を支えている。



マダガスカル国エホアラ港